



HOPPY team TSUCHIYA  
レース結果報告書  
2024SUPER GT Rd.4 富士スピードウェイ

■日時	2024年8月3-4日	■車両名	HOPPY Schatz GR Supra GT
■場所	富士スピードウェイ	■ゼッケン	25
■監督	土屋 武士	■ドライバー	菅波冬悟／松井孝允／佐藤公哉
■チーム	HOPPY team TSUCHIYA	■リザルト	予選 21位／決勝 リタイヤ

## 2ヶ月ぶりの一戦

### トラブル発生で“答え合わせ”もできず

8月3、4日に静岡・富士スピードウェイで開催された SUPER GT 第4戦「FUJI GT350km Race」。およそ2ヶ月ぶりとなる戦いの場において、No.25 HOPPY Schatz GR Supra は予選 21位からスタートを切るも、決勝序盤でトラブルが発生。レース継続は叶わず、惜しくもリタイヤで戦列を離れている。

例年以上に厳しい暑さとなっていますが、皆さま夏バテなどせずお過ごしでしょうか？ ホピ子はチームのみながあれこれ作業をしてくれているので、相変わらず元気だし、成長を続けています。まあ、何をもって“元気”というのかよくわからないけど（笑）、サーキットで戦う準備は日夜行なわれているので、元気と言えるのかな!?

前回の鈴鹿戦からおよそ2ヶ月という長いインターバルを経て、富士スピードウェイへとやってきたホピ子。その間、ずーっとチームのガレージでゆったりまったりしていた……わけではありませんよ！ この貴重な時間をしっかり有効活用し、ブラッシュアップの日々を過ごしておりました。

具体的には、7月14、15日に宮城・スポーツランド SUGO で行なわれた GT エントラント（GTE）協会主催の GT300 テストに参加。実走のテストが限定される SUPER GT だけに、GTE が主催する GT300 クラスのテストはとっても貴重な時間！ せっかくだからとガッツリいろんなメニューを試すことにしたのです。このところ、チームが一番苦戦しているのがタイヤのマッチング。この“4つの黒くて丸いもの”をどう使うのか、これが本当に難しいようで……。武士監督はじめドライバーの皆さん、チームスタッフの皆さんが毎回々々頭を悩ませているんですね。

ひと言でタイヤといっても、中身がそれぞれ異なっているわけで、その特性をよーく把握した上でホピ子に装着することが望ましいんですけどね。ただ、タイヤのことがわかったとしても、そのパフォーマンスを最大限引き出すために、ホピ子をチューニングしなきゃいけない。そのチューニングも正しい方向でないと、タイヤだってキチンとお仕事できない。そもそも、解を出すこと自体が簡単じゃない。そこにみんな挑んでレースをしてるわけだし。ホピ子としては、持っている力を少しでもたくさん、ううん、100%出せるように！ という気持ちはあるので、それがうまく形となる日を待つだけです。

ただ、テストでたくさんトライしたメニューから、絶対これだ！ という答に絞り込むところまではいかなかったんです。なので、富士には菅生テストで得たデータをもとにして、ミーティングでいろんな仮説を立てて、

富士仕様のホピ子となりました。武士監督も、「これまで、全然違うところへ行ったり来たりしてたと思う。テストで大きな一歩を踏み出せたと思うので、ようやくやっとスタートラインに着けたのかな。このレースウィークで、テストの答え合わせをする」と言ってたけど、果たしてどんな結果になるのやら……。

今回、富士は初めての350kmレースでした。今まで、開幕戦の岡山や最終戦のもてぎでは300kmのスプリントレースをしてきたけど、350kmという距離は初めて。“プラス50km”の影響はあるのか!? 正直、ホピ子自体あまり違いがわからない(苦笑)。ただ言えるのは、何もなければピットインは1回。ほぼスプリントレースってこと。GT300クラスだと、チームによっては好成績を狙ってタイヤ無交換をする可能性もあるのかな。今回のホピ子は、タイヤのマッチングの答え合わせがあるからそういう戦略はないけど。

朝の公式練習は、気温29度、路面温度38度のコンディションで始まりました。久々の公式セッションとあって、シャキン! と気が引き締まります。そうそう、報告が遅くなったけど、今回からチームではメカニクスーツが新調されました。暑さ厳しいなか、みんな快適に仕事ができますよね! ただ、ホピ子にはエアコンは未装着。でもクーリングでしっかり対策できてるから大丈夫、って冬悟くんも孝允くんも気に留めてない様子。まず、冬悟くんがコースインし、持ち込みセットの確認に入り、その後も定期的にピットインを繰り返して調整をはじめとする作業を続けました。そのなかで、最終的にチームベストとなる1分40秒557のタイムをマーク。最終的に孝允くんへ交代したのは、GT500クラスとの混走セッションの終盤でした。孝允くんは引き続き、GT300クラスの専有走行でもステアリングを握り、予選に向けての調整を続けて最後は26番手でセッションを終えました。

予選は午後2時25分スタート予定だったけど、直前のF4レース中にアクシデントが発生。路面にオイルが撒かれたらしく、その処理に時間がかかってしまい5分ディレイとなりました。加えて、直後に開始されるGT300クラスQ1はB組、A組と2組に分けて行なわれるため、路面コンディションの差が出るのが懸念され、レースフォーマットが変更されました。通常、Q1とQ2でのタイムを合算して決勝グリッドを決めるんだけど、今回、Q1のタイムはQ2に向けての組分けのみとし、予選順位はQ2のみのタイムで確定することに。結構直前のアナウンスだったのでちょっと慌てたけど、まあホピ子としてやることは何も変わらないので、まずは気温33度、路面温度54度のなか、Q1担当の冬悟くんとコースに向かってアタック開始。午前中の公式練習よりタイムアップした1分39秒980をマークするも、上位16台のアップクラスには入れませんでした。Q2も似通ったコンディションでアタックがスタート。このタイムのみで決勝グリッドが決まります。チームとしては、ホピ子にまだ予選一発の速さを求めず、粛々とクルマ作りに着手しているのはよく承知しています。でも、ホピ子としては、ちょっとでも気持ちよくアタックしてほしい……。その思いが通じたのか、孝允くんは1分39秒596のタイムをマーク! 冬悟くんのアタック後、セットチェンジしたことも奏効したようで、予選日のチームベストタイムを刻んでくれました。結果、翌日の決勝は21位からスタートを切ることになりました。

ただ、予選を終えたふたりのドライバーとしては、まだ十分な結果でなかったのは明白でした。「前半戦と比べてクルマの方向性は変わったものの、課題を克服するまでには至りませんでした。ペースがなかったです。セッティングに関してもまだ“何かを探している”状態」と冬悟くん。「決勝でもいろいろとチャレンジして、鈴鹿に向けて準備するようになると思う」と教えてくれました。孝允くんも「鈴鹿に向けていいところ、悪いところをしっかりと判断するレースになると思う。しっかりと走ってデータを集めることに集中できればいいと思っています」とコメントしていました。確かに、武士監督も言ってたけれど、今回の富士は鈴鹿に向けての準備に位置づけているという感じ。とはいえ、レースには違いないのだから、好機をつかんでしっかり結果を出していきたいと思ったホピ子でした。

レースウィークの富士は少し薄雲り先行の天気ながら、時折強い日差しが照りつける暑さに。気温 35 度、路面温度 56 度と決勝日も厳しい暑さがサーキットを包み込みました。そんななか、たくさんの応援をいただき、決勝に向かったホピ子。スタートドライバーは冬悟くんが務めました。オープニングラップではひとつポジションを下げたけど、翌周からひとつ、またひとつとポジションを取り戻す走りを披露。その後、ライバルに先行を許してしまったものの、11 周目にはベストラップを刻むなど、タフな状況のなかでも力強く走り続けていました。ただ、正直なところ、思った以上にスピードが出せず、厳しい展開だったんですね。それをドライバーの力量でなんとか踏ん張ってくれてたのです。

ところが、そんななか思わぬことが……。24 周目に入り、突如トラブルが発生。冬悟くんは大事をとってペスを落としながらダンロップコーナーに向かうと、そのアウト側でクルマを停止させました。ピットに戻ることができる場所なら、レース中になにかしら修復可能だったかもしれないけど、こればかりはどうしようもないこと。残念ながら、今回ホピ子は皆さんの前でチェッカーを受けることなく戦いを終えました。

悔しさが募るチームのみんなでしたが、月末には次の鈴鹿大会が控えています。ご心配をおかけしましたが、電気系に問題があったことがわかり、その対策にも取り掛かっています。当然ながら納得できるほどの答え合わせもできぬまま、サーキットを去ることになってしまったけど、走った分だけデータは増えたとし、ドライバーふたりからのフィードバックも得られました。もちろん、もっともっと時間があれば良いのだけれど、与えられたなかでベストを尽くさないといけないのが、レースの世界。武士監督も、「今回得ることができたポジティブな感触を鈴鹿に活かしたい」と言ってます。トライしたことがすぐに最高の結果へと繋がらなかったとしても、その積み重ねが経験値となってしっかり活かせるときがくることをホピ子は信じます！

今度の鈴鹿こそしっかり 350km レースを走破し、またその次へと繋げていきたいと思っているので、引き続き応援してくださいね！ また鈴鹿でお会いしましょう！

追伸：サーキットにお見えになる方は、しっかりと暑さ対策を忘れずお越しになってくださいね！

## ■レースを終えて

### 【菅波 冬悟】

SUPER GT Rd.4 FUJI 大会の応援ありがとうございました。

今回のレースは残念ながらマシントラブルによりリタイヤという結果となりました。

走り始めからあまりペースが良くなく、フリープラクティス、予選、決勝と解決策を探すべく様々なトライを行いましたが、解決できぬままリタイヤでレース終了となりました。

速く走れず、上位争いも出来ずフラストレーションの溜まる状態ではありますが、チーム一同協力してこの状況を変えられるように引き続き次回の鈴鹿ラウンドも頑張ります。

### 【松井 孝允】

今回の富士大会の前に菅生でテストがあり、そこでの内容も踏まえて乗り込みました。

フリー走行、予選と菅波選手、佐藤選手とチームで1つでも前にと言う想いで進んで行き決勝は粘ってポジションアップを狙いました。しかし、トラブルにてリタイヤと悔しい内容となりましたが鈴鹿に向けては良いデータも取れたので次戦が楽しみです。

今回も現地だけでなくたくさんの応援ありがとうございました。

早く結果で皆様に良い報告が出来るように頑張りますので引き続き応援宜しくお願いします。

### 【佐藤 公哉】

皆様第4戦富士大会もたくさんの応援ありがとうございました！

決勝は残念な結果となってしまいましたが、週末を通してはかなり苦戦していたと思います。

打開できるように次戦からに向けてもチームをバックアップして行けるように私自身も最善を尽くしていきたいと思います。

引き続き応援宜しくお願い申し上げます。

### 【土屋 武士監督】

今回のレースは残念ながらトラブルによりリタイヤとなってしまいました。昨年のこのレースで車両の火災があったこともあり、是が非でも皆さんの前でチェッカーを受けたかったのですが…。ガレージに帰った後に原因の方はしっかりと追究ができていますので、次戦以降に向けては問題ありません。しかしスピードの部分ではまだまだ上位を走れるものではないので、しっかりと分析し着実に根拠を積み上げてなるべく早く“戦える”クルマにしていきたいと考えています。

まだまだ道のりは長いですが、前を見て進んでいきたいと思います。

今回も温かい応援をありがとうございました！ 次戦もよろしく願いいたします。

### 【問い合わせ先】

つちやエンジニアリング合同会社

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原2507

TEL : 0466-49-5010 FAX : 0466-49-5011

担当： 土屋・佐々木